

103 モーイ親方(ツ)

(親方の最期)

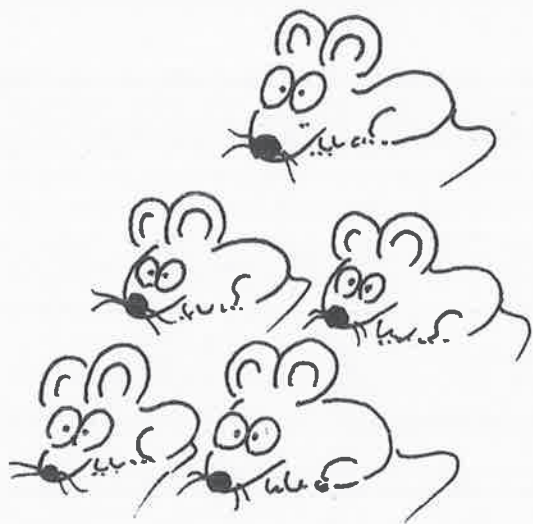
モーイはもう、頭は優れているから、偉いもんじゃつたら死刑にされるからね、平生はやったつてよ、氣違ひみたいに。これはもう氣違いといっていたね。そういうお話です。

このモーイがね、これ、頭の優れた子どもとわかってからね、もう死刑の命令を下されて、首里からね。そしたら、この、鼠を取って来てね、この鼠を、二つ捕まえて、

「この鼠は二つでない、五つ入っている」という話があります。それがね、モーイが言った話だけれど、首里でよ。あのもう、死刑といってね、赤い旗を揚げてね。死刑、打ち首だ。

それからあの、このモーイはもう死刑といって斬ったそうですよ。斬ったからね、モーイが言ったとおり、この鼠を出して見たらね、五つになっていたそうですよ。赤ちゃんが生まれて。このモーイは殺さないほう

がよかったなといって。



字伊原 玉城盛勝